

< 30-05 > 令和 2 年度京都府普及指導活動外部評価結果

課題名	若い就農者などへの発展段階に応じた伴走支援	人づくり・ 組織づくり	丹後農業改良普及センター
(1) 普及指導事項（評価対象） ①就農計画の作成支援 ②個別的課題を解決するための伴走支援 ③若手農業者への安定経営に向けたステップアップ支援		(2) 普及指導対象 ①丹後農業実践型学舎及び担い手養成実践農場の研修生（9名） ②伸び悩む若い就農者、就農1年目の者等（のべ43名） ③将来地域農業の中核となり得る若手農業者（18名）	
(3) 活動内容と成果			
① 就農計画の作成支援 研修指導者（丹後農業実践型学舎等）との連携の下、ほ場で生産技術の助言を行った（登録農薬とその使用適期、他の品目との作業の競合時期など）。研修中の経験に基づいた就農計画の完成に向けて農閑期の4箇月間に一人平均5回程度面談した（作業競合を回避した効率的な作付体系など）。その結果、対象者の8名とも就農計画を作成し、全員営農を継続しており、農業経験を重ねる中で、基幹品目の変更や計画品目の追加・中止、販売先の追加など自分に合った農業スタイルを確立しつつある。			
② 個別的課題を解決するための伴走支援 数年以内に経営を軌道に乗せるために、毎年度の当初に設定する課題を克服することを目指し、対象者共通品目の技術資料の作成と助言（土壌流亡対策、多年生雑草の防除、カボチャ生産技術など）や個別の課題克服に向けた伴走支援を行った。また、令和2年度には農業基礎講座を開催した。その結果、人によって差があるものの、概ね各年度当初に設定した課題を克服できた。			
③ 若手農業者への安定経営に向けたステップアップ支援 重点対象者の選定と課題の設定、及びその課題克服のための伴走支援（米の食味コンクール受賞に向けた品質向上技術、ニンジンの割れの原因と軽減対策など）を行った。また、青年農業者ワークショップ(H30 兵庫県2法人視察、R1 講演会)、農業経営研修会 in 丹後(R1、4日間)を開催した。その結果、各自課題の克服に取り組み、一部の者は目標を達成し、将来を見据え課題を明確に説明することができた。対象者18名のうち、中核的担い手数は令和2年度現在12名である。			

(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等
＜対象の問題解決のため効果的なねらいと働きかけになっていたか＞ 発展段階に応じて個別にきめ細かい対応をされていることが評価できる。 様々な事例が報告されているため、府内で共有されるべき。	府内における事例の共有については、農産課と相談しながら整理していきたいと考えています。
＜働きかけ（活動）によって導かれた対象は、目指す姿に到達したか＞ 目標の評価基準が外部に明確であればより分かりやすい。農家にも不足している点を伝えられれば次年度の改善につながる。 個別支援はすぐに結果が出るものばかりではなく、長い目で見ていく必要がある。 京都市と距離のある丹後でどのように販売していくかも課題である。 親元就農で農業資材が揃っている農業と最初何もないところから農業をするのでは全然ちがう。農業をしたい若者が生活できる農業に向けてしっかり指導いただきたい。	次期普及計画においては、評点の根拠をより明確にし、対象者には今後とも未達成部分の改善に向けた助言を行っていきます。 農業者によって発展速度が異なりますが、普及センターはどちらかと言えば発展速度が遅く所得も少ない方々やＩターン等営農条件が不利な方々を優先的に普及対象として選び伴走支援してきました。単年度では良い結果が出なくても長い目で支援していくという姿勢は今後も変わりはありません。ただし、ご指摘のとおり生活できるレベルの所得を早く実現してほしいので、対象者の個性、環境、品目等に着目しながら現実に即した支援に取り組んでいきます。 京都市など京阪神経済圏から遠いため、共販体制でも運賃は高く、個人販売ではさらに不利な条件になります。しかし、ＪＡの共販体制には、農業者にとって農産物の卸先が近く、そこに卸せば農作業に専念できる時間を長く確保できるという利点があります。地元ＪＡは現在、京都市場だけでなく野菜加工業者、直売施設など多方面の販路の確保に努めており、丹後普及センターも新規就農者にはＪＡ出荷を勧めているところです。また、丹後振興局農商工連携・推進課が、運送会社と連携した定期便(混載便)を構築し、流通コストの低減を図っています。新たな野菜加工事業者の丹後への誘致や進出の動向もあります。丹後においても、流通コストの低減化が

	進行中であり、農業者は流通コストをあまり気にせず農業生産を行える環境が整いつつあります。
<それは成果指標に表れているか> 今後のステップアップに向けて、個々の農家の目標設定について明確なヒアリングが不可欠である。	「③若手農業者への安定経営に向けたステップアップ支援」の成果指標は「課題経営力向上の課題を明確に説明できる農家数」でしたが、ご指摘のとおり、今後のステップアップに向けては明確な目標設定と、そのためのヒアリングが必要と考えております。次期普及計画においては対象者と話し合いを重ね、経営・技術状況の分析などしながら改善いたします。
<課題解決に向けて関係機関と連携した取り組みがされていたか> 関係機関と連携され進められていると思うが、生産物の販売や経営改善などについて、今回の説明では資料から連携内容が読み取れなかった。	外部評価会では、時間の都合で御紹介できませんでしたが、普及センターは対象者の伴走支援に当たり、関係機関と連携して以下のような取組を実施しました。今後も引き続き、関係機関と連携して対象者の伴走支援に努めていきます。 ○「経営研修会」の開催（令和元年度）：府農業会議 普及センター単独では、経営分野の知識が不足していることから、農業会議へ講師派遣を依頼し、受講予定者から希望する研修内容を丁寧にヒアリングしました。 ○先進地視察（平成30年度）及び講演会（令和元年度）：丹後地域農業士会 普及センターが事務局として、対象者のニーズを考慮しながら立案・企画し、農業後継者育成に係る事業として丹後地域農業士会の協力を得て開催しました。 ○次世代資金受給者の技術向上・経営安定に係る面談等（平成30～令和2年度）：市役所・町役場、JA、農地流動化推進委員、農業委員会

	市役所・町役場が事務局として実施する年４回の農場等での面談において、普及センターは生産技術や「就農計画」の実現のための助言を積極的に行いました。また、施設・機械導入のための補助事業・資金、農地の確保・整備などの臨時的な協議においても、積極的に関与しました。
<総合コメント> 普及員同士で情報交換を積極的に行ってチームで対応することで大きな成果をあげているのではと思う。 当該エリアでは新規就農希望者が確実に発生してくる状況にあるため、技術対策や経営の基礎を固め、戦略的に経営向上を目指す対象を育成して、「頑張ったら稼げる」という農業モデルを丹後から発信いただきたい。 今後とも繰り返し本活動を継続し、丹後国営農地５１２haの担い手を育成されたい。 どういう農家を育成していきたいのか、という多面的な課題と目標設定も大切である。	今後も一人一人の能力や性格を考慮しながら対象者の経営向上を図っていきます。 速い経営発展が見込まれる方には、必要に応じて関係機関とも連携して対象者の経営感覚の向上を目指して伴走支援を行い、国営開発農地等で「頑張ったら稼げる」モデルを構築し、発信していきます。一方、経営発展が遅い方には、スケジュール管理や整理整頓、コスト管理などを含めた多様な課題を設定しつつ、課題の克服に向けた行動、努力を支援していきます。